

有明高専だより

第93号
1997.10



今年度は、大学編入学試験に30名の学生が合格しました。合格した大学は、22大学にのぼります。合格者数は昨年度より少し減少しましたが、ここ数年の傾向をみると少しずつ増加しています。これから進路を決めていかなければならない1～4年生のみなさんの参考になればと考え、各学科から一人ずつ、試験に合格するための心構えや体験を語ってもらいました。



5M 岡部 陽子
豊橋技術科学大学
機械システム工学科

私は、低学年のころから大学編入を志望していましたが、大学で何を勉強し、将来どんな仕事に就きたいのかがあまりはっきりとはしていませんでした。そこで、自分が本当にしたいことは何なのかを、時間をかけてじっくりと考える必要がありました。その後でもう一度、大学に編入して勉強する必要があるのかどうかを考えました。もし、自分が志望する仕事に就くことができるのならば、本校を卒業後、就職をしようと

も考えました。しかし、女子ということで、必ずしも自分が志望する会社を受けられるとは限らず、受けられる会社の中から自分がしたい仕事ができる会社を見つけなければなりません。その上、自分がしたい仕事をするには自分の実力が不十分であるということもありました。女子ということによる制限は、力、体力などの問題からあきらめざるを得ませんが、自分の実力の不十分さによる制限は勉強によって取り除くことができるはず。だから私は、体制が整っている豊橋技術科学大学において勉強する決意をしました。入学するからには最後まで一生懸命がんばるつもりです。

豊橋技術科学大学には、夏休みに大学公開日というものがあります。大学内部の様子はもちろん、最先端の研究を見学させてもらうことができます。愛知県という遠いところですが、興味のある方はぜひ一度見学されることをお勧めします。



5E 中司 宏
熊本大学
電気システム工学科

私は高専で学びきれなかったことや、興味を持ったものをもっと深く学びたいと思い進学を希望しました。また、どの大学を受験するのかは、まず自分が将来何をしたいのか考え、自分がやりたいと思う分野の教科書を書かれた方が熊本大学におられると知り、その先生の下で勉強したいと、熊本大学を推薦で受験しました。

大学編入を希望するならば、1年から4年までの成績が一番大切だと思います。なぜなら推薦で受験するには、ある程度の成績が必要だからです。また、私は他の大学を学力で受験しましたが、これも同じことが言えます。

それから、高専で自分はこれを一所懸命やってきたと自信を持って言えるものが一つでもあれば、断然有利だと思います。例えば部活を1年からずっと続けていけば、それが面接でも話題になるし、またその持続力も認められます。

熊本大学は、今年から学科構成が変わり、面接の方法も今までと異なっていました。専門教科の勉強もしていたので、自信をもって面接を受けることができました。だから推薦で受験するにしても、専門の勉強もきちんとしておけば、自分に自信が持て良い結果につながると思います。



5I 磯田 恵子
九州工業大学
制御システム工学科

大学受験はあっという間でした。私は5年生になってから真剣に編入学を考え始めたので情報収集や志望校の決定などは大変あわただしく、また苦勞しました。特に私の受験した九工大の制御システム工学科は過去に電子情報工学科からの編入者がいなかったため、何もわからず、不安ばかりでした。そんな状況の中で各大学の学部の特徴や研究内容等を入手するのに私はインターネットを活用しました。インターネットのホームページにはパンフレットと違って大学内部のことまで載っているの、間違いのない大学選びができると思います。実際の試験は口頭試問方式の面接でした。試験官の方々は大学へ入ってから、どんな事をやるつもりなのかという事に非常に関心を持っておられたようで、鋭く質問されました。私は運よく合格しましたが終ってみると、やはり早い時期から志望校を決めて目標を持っていないと駄目だというのは痛く感じました。“いちかばちか”では全然説得力がないし、力を出し切れずに終わってしまいます。

試験当日は担当の人が会場まで案内してくれたのですが、その人は「私についてきて下さい。」と言って階段を2段飛ばしで6階まで昇っていき私達は息を切らしながらついて行きました。そのおかげでちょっと緊張が解けたような気がします。人間頭ばかりじゃなくて体も使わないと駄目なのです。



5C 吉村有希子
長岡技術科学大学
環境システム工学科

私が長岡技科大に編入したいと考え始めたのは4年の終わり頃でした。しかし5年になり、自分の進路を本格的に決めようとしたときに周囲の人には学校生活や勉強内容の面から技科大よりも総合大学を勧められたり、またその逆だったりしました。大学編入だけでなく就職に目を向けてみても、技術者という分野はもちろんですが、他の職種の求人もありました。そこで改めて自分が、何に向いているのか、これから何をしたいのかを考えました。

その中で、両親を含め先生や先輩などの身近な人からのアドバイスはたいへん参考になりました。特に、志望している大学や企業の先輩に話を聞くことが一番の手がかりになるということを感じました。

私は最終的に、今、大学に編入できるチャンスを活かしたいと思ったことと、以前より環境について興味があったことから、長岡技科大の環境システム工学科を選びました。まだ新しいこの学科は高専のどの学科も受け入れています。ただ、カリキュラムの中に、私が今まで学んできた以外の教科も含まれているなどたいへんな面もあります。しかしそのような新しい経験を勉強以外のことについてもたくさんしていくうちに、自分の視野を広げることができるのならば、大学に編入することは十分に意味のあることだと思います。そして高専で過ごした以上に有意義な時間を送りたいと思います。



5A 入江 智亮
長崎大学
構造工学科

私は有明高専にきて、3年生くらいから大学に編入しようと思っていました。そのころは特にどこの大学とは決めていず、ただばく然と大学に編入したいと思っていて、いざ5年生で、どこの大学を受けるかという時に、なかなか決めることできませんでした。その時に、長崎大学工学部に構造工学科という構造を専門とした学科があるということを知り、また大学に行くなら構造系に進もうと思っていたので、ここを受けようと思ったのが5月の初めでした。

私は長崎大学を受けると決めてから、まず過去の編入学試験問題を集め、それに沿って勉強しました。ほとんどが3・4年生で勉強したものでしたが、忘れていくことが多く、先生や友人によく聞きに行き、わかるまでやっていました。受験勉強時間は4時間で、編入学試験を受けるに当たり、限られた時間を有効に使うことが重要でした。部活も試合が近かったので、部活に出ながらの勉強でした。

大学編入学をめざす後輩へのアドバイスとしては、早い時期から志望の大学・学科を決めて勉強してほしいということ、勉強も基礎がしっかりしていれば、あわてなくてもいいので、今勉強していることをしっかりと理解しておいてほしいと思います。

目次

特集 大学編入学..... 2
 シリーズ 研究室訪問..... 4
 シリーズ 人物・いま..... 5
 中学校訪問..... 6
 入試説明会・学校見学会..... 7
 九州地区・全国高専体育大会..... 8
 海外出張報告..... 11
 公開講座..... 12
 夏期実習..... 13
 シリーズ クラブ紹介..... 14
 学生参加行事..... 15
 大蛇山まつり..... 16

(表紙 写真部撮影)

今回、物質工学科三浦先生の研究室を訪問しました。

1. 本校唯一人の薬学博士ですが、ご専門は？

おかしな話ですが、専門は何かと尋ねられるといつも困ってしまうんです。薬学部には、生薬学教室から新設講座の放射薬品学教室に移ったことでもお分かりいただけると思いますが、その時々で専門分野が違ふんです。それだけどっつかずで、大したことないと言えるのかもしれませんが。現在の教育・研究に係る専門領域をあえて挙げると、生薬、植物化学、植物組織培養といったところでしょうか。実際にはそれらの融合領域です。薬用成分などの有用植物成分、とりわけ、フェノール類の構造研究と生体内代謝および培養組織での生産に興味を持っています。

2. 前に勤務していた長崎大学と比べて、本校の学生はいかがですか？

年齢層も違うので、比較は難しいですね。有明高専には明るく真面目な学生が多く、親しみが持てます。でも、無気力で不勉強な学生も目につきます。羨ましいほど行き届いた少人数教育を受けながら、もったいない話です。卒研に限ってみると、大学と比べ研究設備や専門図書に恵まれておらず、しかも専門教育の期間も短いのに、よくがんばっているなあと感じています。

3. 生物棟ではどんな生物を扱っていますか？

生物棟の他の研究室では微生物も扱っていますが、私の研究室ではもっぱら植物を使っています。組織培養の材料として、ウコンをはじめ、色々な植物を試してみましたが、うまく育たなかったものも多く、現在扱っているのは、アカネ、ハマボウフウ、メロン、エーデルワイスなどの9種類です。

4. 卒業研究ではどのようなことに重点をおいて指導されていますか？

事情があって、昨年度は卒研7名、本年度は5名と人数が多かったので、まずはテーマを決めるのに苦労しました。物質工学科の他の研究室でもそうして

られますが、一人ひとり独立したテーマを与えるのが以前からの私の方針です。与えたテーマがうまく行くとはいえないし、研究の手順、テクニックに慣れるまではみんなで実験させています。ご存じのとおり、大学の研究室では、卒研の学生は、自分の研究に関連した英語の論文を探し、教官、院生に混じって、セミナーでの発表をしょっちゅうやっています。高専の学生に同じようなことを求めるのは、先に述べた事情もあって無理だし、ついつい一方的に教えてしまうこととなります。向学心に燃える学生には悪いけど、仕方ありません。生物の実験では、思いがけないことがよく起こります。思ったとおりに行かないのは、それなりの原因があるからで、どんな生物でも、限らない生命の謎を秘めており、貴重な研究対象です。生命の営みに逆らわずありのままに観察し、粘り強く挑戦すれば、面白い発見につながることを、卒研で学びとれたらしめたもの。好奇心が芽生え、研究室に来るのが待ち遠しくなるはず。私自身がそうなんですから。

5. 来年3月で退官されますが、学生や教職員に助言をお願いします。

最初のうち生物棟はまだなかったので、思案の末、野山で草木を集め、草木染に挑戦しました。狭い教室内にコンロと鍋を持ち込んで、5名（後に7名になりました）の卒研生との実験は大変でした。しかし、今となれば、懐しい思い出です。これも植物とその成分を少し知っていたおかげです。何が役立つかわからないものですね。欲しがるだけでは愛はもらえません。勉強や研究にも、似たようなことが言えるのではないのでしょうか。あきらめる前に、もう一度努力しなければ前進や進歩はないと思います。なお、多忙と疲労は省略を強いるということ、これについても、やることに価値や意義が見出せれば、少しは気分的に克服できると思うのですが、いかがなものでしょう。

（聞き手 物質工学科 川瀬良一）



培地の作製（微生物工学実験室にて）



培養組織の植え替え作業（植菌室にて）



“Dreamサンタ”

4E 隈田 順子

現在、私は「青年の家」の“シルクハット”というサークルで活動しています。最近では、子供達と一緒に七夕祭をしたり、三池炭鉱に関する場所をオリエンテーリング形式で見学したりしました。このサークルは個性的な人が多くて、変な…いやいや、おもしろい集団になっています。皆、自分のやりたいことをやろうと思っているので、よく遊ぶ計画が立ちます。——この前なんて、朝の4時集合で海水浴に出かけました。——「一体何のサークルなんだ？」と思ってる方、“Dreamサンタ”といえば聞き覚えのある方もいる（と期待しています）でしょう。“シルクハット”はその本体だと思ってください。

“Dreamサンタ”とは、クリスマス・イブより一日早い12月23日に、サンタやトナカイetc.に扮した青年達が子供達にプレゼントを渡す、というものです。何が楽しいかって？それは子供の笑顔ですよ！最初は全然信じてくれない子も、最初は怖がってばかりいた子も、プレゼントを渡すだけですごく嬉しがるんです。その笑顔を見るだけで10月から準備を始めて約3ヶ月間、がんばってきた甲斐があったと思えます。それに「老・若・男・女」いろんな方との出会いがあり、話し合いを通じて自分の意見をしっかり言えるようになったり、年上の方と対等に（？）渡り合えるようになったりします。

ですが、問題が1つ。家庭からの応募が年々増え、全家庭に対応できなくなってきているのです。もっと人がいれば、もっと時間に余裕があれば、と誰もが思っています。そこで一言！

《そこのあなた、今年の冬は“Dreamサンタ”に参加してみませんか？》



親善大使として派遣されて

3C 藤本 尊文

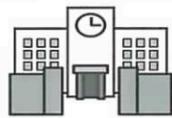
4か月前、アメリカ合衆国のミシガン州マスキーガンというところに、大牟田市から親善大使として派遣され、14日間滞在してきました。マスキーガンはアメリカの内部で、観光地でもないからまったく日本語が通じず、日本人もほとんどいないような所です。このような所で、アメリカ人の家庭に入って生活しました。

アメリカの生活に慣れ始めると、たどたどしい会話の中で、言葉がよくわからなくても相手が何を言いたいのかが自然とわかってくるようになります。言葉が通じなくても、笑顔は世界共通だから、ごまかせます。アメリカに着いて数日がたって、学校につれていかれました。学校に行くのは本当にイヤでした。正直、恐怖でした。でも実際に行ってみると、めずらしそうに見られはしたけど、みんなやさしかったです。なかには、「日本語書いて」と言ってくる人もいました。日本の学校だったらこの逆になるだろうと思いました。

異文化というものが一番感じられたのが、食生活だと思います。それ以外にも、たくさんの人と会ううちに、考え方や感じ方の違い、体型の相違など、だんだんとわかってきました。せまい国土で常に時間に追われている日本人よりも、幼い頃から自分で生きていく強さを持っているアメリカの方が、人にも優しくできるんだと思います。そこに感動しました。

結局、アメリカで得たものは何だと言われるとわからないけど、それは今の自分の生き方と価値観に確かに息づいていると思います。

ところで、今年の11月にアメリカからホームステイの高校生がやってくるので、受け入れてみてはどうでしょうか。受け入れてくれる家庭を募集しています。



白光中学校 (大牟田市)



Q まず、白光中学校の概要についてお聞かせ下さい。

A 今年の5月19日に50周年の記念行事を催しました。今年50周年を迎えた学校が3校ありますが、本校は昭和25年4月発足しました。現在、1年生134人、2年生142人、3年生155人で、各学年4クラス編成となっております。また、先生の平均年齢は39.5才で、若い先生も多くおります。全校生徒数は431名で、中規模の中学校です。



宮地 助弘 校長

Q 次に、教育目標をお聞かせ下さい。

A 前校長が立てられた方針を踏襲していますが、私が本校に着任したとき、次の3点を生徒達にお願いしました。

- (1) 玄関とトイレが常にきれいな学校にすること。
- (2) あいさつを大きい声ですること。
- (3) 時間を守る、すなわちチャイムを守ること。

現在、(1)と(2)については先生方の指導がなくても、生徒達はきちんとやってくれています。しかし(3)については、いま一歩というところ。特にあいさつについては「生徒達が来客や保護者の方に対して大きい声であいさつをします。」とおほめの言葉をいただいております。

Q 白光中学校の特徴はなんですか。

A まず、教育方針の一つである「あいさつ」だけでもよいから大牟田市の中学校の中でNo1になろうと全校挙げて取り組んでいるところです。つぎに、文武両道と言いますか、学習面と文化・体育を含めた部活動面の両立を目指して生徒達が一生懸命努力していることです。

Q 部活動の状況はいかがですか？

A 全校生徒の70%程が部活動をやっており、早朝から活発に励んでいます。その指導には若い先生が当たっていますが、保護者の指導による部もあります。今年は男子のハンドボールが地区優勝をしました。県大会へはハンドボールの男女、バドミントンの個人、陸上が出場しました。男子のハンドボールが3位でしたが、他は予選敗退でした。また文化系ではバスケット部が県大会に出場しています。

Q 情報処理教育はどのようにされていますか。

A 大牟田市内の中学校で、パソコンが設置されたのは本校が最も早かったようです。現在20数台あり、2人に1台という状況ですが、授業などで利用するには1人に1台ずつあればと思っています。2人に1台ですと、どうしても遊んでいる生徒達ができます。

本校では技術と数学の授業でパソコンを利用しています。年度により多少違いますが、週3時間程度で、その内容も科目によって異なっています。さらに、指導する場合には専門性が必要となりますので、今のところ3人程の先生が当たっています。また本校にはパソコン部がありますので、保護者の方で詳しい方が時々指導に見えております。

Q 有明高専に対する印象や要望をお聞かせ下さい。

A 学校説明会や見学会の時期が中学校の2学期になっていますが、それらを夏休みにしていただけたらと思います。2学期に入ると体育祭などいろいろな行事がありますので、重なったりあるいは参加したくてもクラス担任や保護者が引率しにくい状況になります。

学校を見学するのも良いと思いますが、高校の場合は体験学習などで高校の授業の雰囲気を味わっています。また、私立大学の中には大学の実際の講義を受けられる学校もあるように聞いています。高専でも、「希望する生徒に高専における実際の授業を受けさせ、一つでも質問させることができる」ような機会を設けていただけたらと思っています。



校門を入ると右側に体育館、左側にプールとグラウンドがある。体育館の西側に教室、教室の南側に管理室等がある。数人の生徒と出会ったが、大きい声で元気よくあいさつしてくれました。

研修等でご多忙にもかかわらず、質問に丁寧にお答えいただいた宮地助弘校長に感謝いたします。

(8月6日訪問 聞き手 猿渡真一)

入試説明会・学校見学会

中学生とその保護者ならびに先生方を対象に、9月21日(日)と22日(月)に入試説明会と校内見学会を実施しました。9月21日は3組30班に分けて各組2時間半のスケジュールで行いました。

視聴覚教室で校長あいさつ、学校紹介ビデオ、入試要項の説明、質疑応答が行われた後、各学科の見学が行われました。見学の引率と各学科の説明には、4年生と5年生の学生の皆さんが協力してくれました。

また、21日に体育祭が行われた中学校があったため、参加できなかった学校のために22日にも同様の説明会と見学会を行いました。参加者は両日あわせて627名にのぼりました。



各学科の展示テーマ

- M科 NC旋盤・レーザ加工・ディーゼルエンジン
- E科 碍子の閃落試験
パソコンによる鉄道模型・パソコン展示
- I科 プリント基板作成デモ・インターネット体験
- C科 分析化学及び無機化学の説明と展示
最先端装置を用いた遺伝子DNAの実験
- A科 造形・建築設計製図の作品展示
建築材料とRC・S造骨組の実験設備の紹介

見学後は、修己館に設けられた相談コーナーで3主事と各学科の主任が参加者の相談に応じました。

～アンケートから参加者の感想を

いくつか拾ってみました。～

・プラカードを持っている人が楽しい方で、見学がおもしろかった。説明を細かいところまでしてくれたり、実験をやってくれて、親切な見学会で、なんか親しみがもてました。(生徒)

・とても、レベルの高い学校だと思いました。機械科で「ゴマちゃん」の亚克力板をもらったのでうれしかったです。先生方や学生さんたちの説明がむずかしくてよくわかりませんでした。だから、この説明が分かりたいのでこの学校に入学したいと思いました。(生徒)

・案内していただいた学生さんや説明していただいた先生方に学校内の雰囲気を感じることができました。のびのびと学んでいる姿に、やはり、子供達にとって理想的だと思います。お世話になりました。(保護者)

・受験及び願書受付、そして今回の入試説明会・校内見学会で何度か来たことがあるが、いつも思うことは、他の私立・公立高校にはない、のんびりとした、そして自由な雰囲気の中で勉強できる環境であると感じています。就職率、進学率ともに素晴らしいことも含めて、生徒にも伝えていきたいと思っています。(先生)

福岡市・熊本市での学校説明会

今年度も9月17日(水)に福岡市の福岡ガーデンパレスにおいて、福岡市およびその近郊の中学校の先生と保護者を対象に本校の入試説明会を行いました。また、今年度からは熊本市でも行うことになり、8月28日(木)にメルパルク熊本で開催しました。説明会では本校の概要、入試要領、卒業後の進路等を説明しました。両説明会の参加者は、合わせて85名でした。

説明後の質疑応答では、推薦入試方法、合格発表の通知方法、学校の雰囲気、寮の雰囲気、課外授業の有無、ロボコンの参加学科、大学編入学先の学部、専攻科の設置時期などについて質問があり、活発な質疑応答が行われました。



電気工学科資格取得者

第1種情報処理技術者合格

5E 片山 圭

H9年4月

第1級陸上無線技術士 (科目合格)

4E 平尾 幸一

H9年7月

- ・無線工学の基礎
- ・無線工学B

第34回（平成9年度）九州地区高等専門学校体育大会

平成9年7月18日～20日
担当校／有明高専／熊本電波高専／大分高専

バスケットボール、弓道女子 優勝！ 硬式野球・ハンドボール・水泳団体 準優勝！

■陸上競技		
総合	3位	
男子4×100mリレー	2位	4 M森・5I古賀(友) 2 C徳永・3 E山田
男子200m	2位	5I古賀(友)
男子100m	1位	5I古賀(友)
	3位	3 E山田
男子走高跳	2位	2 E河野(宏)
	3位	4 M森
女子800m	1位	3 A前田
■ソフトテニス		
団体戦	予選リーグ敗退	
男子個人戦	2回戦敗退	
女子個人戦	1回戦敗退	
■バドミントン		
団体戦	予選リーグ敗退	
男子ダブルス	優勝	2 C吉開・2 I板橋
女子シングルス	2位	5 A永松
■水泳		
総合	2位	
男子800m自由形	2位	4 M安松
男子400m自由形	1位	4 M安松
男子200mメドレー	2位	4 I梶原
男子200m背泳	2位	5 E田中(史)
男子200mバタフライ	3位	5 E久家
男子100m背泳	2位	2 C紺井
女子100m自由形	1位	3 C中尾
女子50mバタフライ	2位	1 C田中(真)

■ハンドボール	準優勝
■硬式野球	準優勝
■バスケットボール	優勝
■卓球	
団体戦	予選リーグ敗退
男子個人戦	準決勝敗退
■剣道	
団体戦	予選リーグ敗退
個人戦	優勝 1 A古川
■サッカー	予選リーグ敗退
■柔道	
団体戦	予選リーグ敗退
個人戦	3位 5 M馬田
■バレーボール	3位
■テニス	
団体戦	予選リーグ敗退
男子個人戦	シングルス準決勝敗退
女子個人戦	ダブルス準優勝

第27回西日本地区高等専門学校弓道大会成績

平成9年7月23日～24日 於 久留米高専

○男子団体の部	予選敗退
○女子団体の部	優勝
○女子個人の部	2位 5 I安藤



第32回 全国高等専門学校体育大会

平成9年8月6日～12日 於 東海・北陸地区

陸上男子4×100mリレーで全国制覇！

○団体の部		
■バスケットボール		
8/9・10 金沢市総合体育館（金沢市）		
予選リーグ敗退		
○個人の部		
■陸上競技		
8/9 富山県総合運動公園陸上競技場（富山市）		
男子4×100mリレー	優勝	5I古賀(友)・4M森 2C徳永・3E山田
男子200m	3位	5I古賀(友)
男子100m	3位	5I古賀(友)
	4位	3E山田
女子800m	3位	3A前田
走高跳	予選敗退	4M森, 2E河野(宏)
■バドミントン		
8/9・10 岐阜メモリアルセンター（岐阜市）		
男子ダブルス	3位	2C吉開・2I板橋
女子シングルス	予選敗退	5A永松
■水泳		
8/9 富山市民プール（富山市）		
男子800m自由形	予選敗退	4M安松
男子400m自由形	予選敗退	4M安松
男子200mメドレー	予選敗退	4I梶原
男子200m背泳	予選敗退	5E田中(史)
男子100m背泳	予選敗退	2C紺井
男子200mバタフライ	予選敗退	5E久家
女子100m自由形	4位	3C中尾
女子50mバタフライ	予選敗退	1C田中(真)
■剣道		
8/9 鈴鹿市立体育館（鈴鹿市）		
個人戦	ベスト8	1A古川
■柔道		
8/9 三重県営サンアリーナ（鳥羽市）		
個人戦（60Kg級）	3位	5M馬田



全国大会陸上競技

男子4×100mリレー優勝 4M 森 裕一郎

全国の舞台に立った時、今までのつらかった練習の成果がやっと実った思いだった。全国の舞台で競技ができる事が半分信じられない気がした。実際、自分の走高跳の競技が近づいてくるにつれてかなりの気持ちの高ぶりがあった。

競技が始まると、やはり全国だけあって強者が多かった。この時、4×100mリレーの予選と時間が重なり、途中で4×100mリレーの方に行かなければならなかった。結局、リレーの方は、予選を通過したが、走高跳の方は、この間にバーの高さが上がり、自分の跳躍ができないままに終わった。男子100m、200m、女子800mの皆は予選を通過して順調に決勝へ進んだ。最初の決勝種目、男子100mでは、3位と4位に入り、出だしは、好調。次の4×100mリレーの決勝では、予選トップ通過だったわがチームが、1位でフィニッシュ。女子800m決勝3位。最後の男子200m決勝も3位に入り、メダルラッシュの大会となった。

また、これからも、練習を積んで、来年も全国の舞台に立ちたい。

地区大会バスケットボール競技

優勝 5A 高倉 英彰

主審と握手をしてコートに整列。あいさつ。そしてジャンプボールで試合開始。九州大会では予選リーグで2勝し、次の日の決勝リーグで2勝、つまり全部の試合に勝たなくては全国大会へは行くことができません。初戦は熊本電波。ここに勝たなくては決勝リーグに上がれないのだが、緊張のせいかロースコアのまま試合が進む。この試合展開を変えたのは、ウィリーでした。どうにか初戦突破、次の試合も勝って、決勝リーグへ。翌日の決勝リーグは予想外のチームだったが、先生の采配が見事に決まり、2試合共勝つことができた。しかし、全国大会の壁は厚く、目標の1勝もできませんでした。レベルの差を感じ、改めて九州の高専のレベルの低さを実感しました。

5年間バスケットを続けてきて本当に良かったと思います。先生やいろんな先輩そして友達に助けられ、また励ましあってがんばってきたなあと思います。続けるという事は一見簡単そうに見えますが5年間という高専生活の中では大きな変化もなく、遊びたい時期につらいと思います。でもこういう時にこそがんばってみるといいんじゃないかと思えます。5年間という時期は終わってしまえば、あっという間です。今一番すべきことには一生懸命取り組みましょう。

地区大会バドミントン競技 2I 板橋 明智
男子ダブルス 優勝 2C 吉開 亮介

私は今年の高専大会が初出場であった。去年は、補欠にもなれず苦しい思いをしたが、今年はレギュラーに選ばれ、九州地区大会では優勝できともうれしかった。まさか優勝できるとは思っていませんでしたが、これからは、追われる立場になるので、今まで以上にがんばろうと思う。(板橋)

初めて高専の全国大会というものを経験してみて、自分のレベルがわかったし、まわりのレベルも知ることができた。それに、地区では敵だった高専の人達が、全国では一緒になって応援してくれた。全く知らない所での試合だったのでとても心強かった。僕はダブルスで出場したけど、それなりの結果も残せし、来年は、ダブルスはもちろん、団体戦やシングルスでも出場できるようにがんばっていこうと思う。(吉開)

地区大会剣道競技

個人戦 優勝 1A 古川 秀一

「全国」という言葉に引かれ、必ず全国大会へ出場するという気持ちで、入部して4ヶ月が頑張って練習してきました。団体戦では実力が発揮できずに終わってしまったけど、個人で優勝することができ、本当に嬉しかった。優勝することができたのも、塚本先生、堀田先生のご指導、そして剣道部員のみなさんの応援があったからだと思います。優勝したことによって改めてチームワークの大切さを学べたと思いました。全国大会では、もう一步のところまで負けてしまったので、来年は個人でも団体でも優勝できるようがんばろうと思います。

西日本地区弓道大会

女子団体優勝・個人2位 5I 安藤 由美

今回の大会は、多分、忘れられない大会になるだろう、と始まる前からの私自身の感想でした。

「優勝」という結果が残せたことは、もちろんうれしかったのですが、それ以上に、今回は高専での最後の大会なんだ、という思いがあったため、試合が終わった直後は喜びというより、一種の安堵感に似た気持ちの方が大きかった気がします。

不思議なことに、私の場合緊張が極限に達すると、その緊張がとけた後は涙が出て止まらなくなるという体質らしく、昨年、準優勝に決まったときも、くやしいという気持ちよりは緊張が解けたことで涙が止まりませんでした。今回も同様に涙が出て止まりませんが、今回はそれ以上に今まで部活を続けてよかったという気持ちの方が大きかったように思います。

私は今年で高専を卒業しますが、これからもこの時の気持ちを忘れずにがんばっていこうと思います。



海外出張報告

今夏7名の先生方が国際会議等の出席のため渡航されました。その中で2名の先生に報告していただきました。



「デカイアメリカ」初訪問

電気工学科 塚本 俊介

到着したその夜、遅い夕食をホテルのラウンジで食べた。出てきた「七面鳥とハムのサンドイッチ」が「デカイアメリカ」初訪問の始まりであった。七面鳥の肉と2種類のハムが、厚手のパンに惜しげもなくはさまれ、それがふた山。それに食べきれないほどのフライドポテトが大きな皿からあふれようとしている。「アメリカ人は、ほんとにこれを一人で平らげるか!？」

6月の末から7月にかけて、第11回パルスパワー国際会議に出席するため、アメリカ・ボルチモアを訪れた。野球好きの人には、ボルチモア・オリオールズの本拠地として知られた都市である。

パルスパワー国際会議は、世界各国からパルスパワーの研究者が約400名参加していた。パルスパワーは最初、レールガンに代表されるような兵器利用を目的に研究が始まっただけに、研究者数は米国・旧ソ連諸国に圧倒的に多い。しかし、冷戦終結後は産業応用が主体となってきており、日本も多くの研究業績を上げている。今回は日本から25名、本校からは電気工学科の河野先生と私の2名、それに八代高専の先生も参加し同行した。国際会議の中身については、書き出せば行が足りないので「さすが」の一言で代弁しておく。

4日間の国際会議が終了後、ワシントンとニューヨークを訪れた。ワシントンの国会議事堂周辺の建物・公園・スミソニアン博物館はデカかった。ニューヨークの自由の女神やマンハッタン街の街並みはもっとデカかった。エンパイヤステートビルの展望階からマンハッタンを見下ろしたとき、友人の言葉を思い出した。「大正時代に建ったエンパイヤステートビルを、旧日本軍の上層部の人たちが見学していたなら、アメリカとの戦争を回避したはずだ」まさに同感であった。



ボルチモア駅ホームにて
左より筆者、村山(八代高専)、河野教官

ドイツの食事

一般科 瀬戸 洋

夏休みを利用して、ドイツのあちこちを見て回って来た。そのとき食べたドイツの料理のことについて書いてみたい。おおざっぱな言い方をすると、ドイツの料理は家庭料理という印象が強い。味は決して悪くない。しかし、量の多さには驚いた。日本人には1枚あれば十分と思われる大人の手のくらいある肉が2、3枚くる。肉の上にはどっぴりソースがかかっている。そのソースが腹にこたえる。同じ肉料理でも、日本のピフテキのようなものがあればいいのだが、ドイツには残念ながらピフテキはない。ドイツの肉料理の主役は豚である。例えば、その代表として、アイスバインがある。これは塩付けにした豚の足である。注文すると、大きな皿にはみでんばかりの豚の足がごろんと出てくる。塩付けだから当然塩辛い。パンかサラダが欲しいところだが、そんな食べ方をしている人はいない。横にそえてあるジャガイモをたよりに食べることになる。ドイツ人はこのあとデザートとしてケーキを食べる人がいる。それがまた信じられないくらい大きい。これをいとも簡単にべろりたいたらげる。こちらはただただ感心し、驚嘆し、そして絶句するのみである。



ミュンヘンのレストラン

クラブ紹介

DIY愛好会とRPG愛好会の紹介です。



DIY愛好会

4M 下村 卓児

こんにちは、DIY愛好会です。現在部員は機械科6名、電気科4名の計10名います。まず活動の内容についてですが、毎年10月に行われているロボットコンテスト(ロボコン)にむけてのアイデア発表などを行っています。DIY愛好会に入っている部員の半数は他のクラブとかけもちしているため、7~10月まではクラブを途中で抜けたり、休んで来てくれます。他の活動としては特にこれといってなくロボコン期間以外は次のロボコンに向けての研究などをやったり、個人活動をやったりしています。

9月1日現在までのロボコンの進みぐあいを説明すると7月いっぱいにはアイデア発表、機構の研究をして8月上、中旬は機構の設計・製図、8月下旬はロボットの製作に入って約3割ぐらいできました。

ロボコンというのはみなさんも知ってのとおり全国の高専が毎年変わるテーマ(ルール)に向けてロボットを作り、競わせるものですが、このロボットを学生だけで作るというのは非常に難しくいろいろな先生方にお世話になっており、大きく見ると学校行事のようなものだと思います。そのためいろいろな体験がたくさんできてとても役にたっています。

ロボットコンテスト九州大会まで残り日数も少なくなってきました。全国大会出場という目標に向かって少ない部員でがんばっていきたいと思います。みなさんも応援よろしくをお願いします。



RPG愛好会

4I 野田 剛

私達RPG愛好会は部員がなんとたった4人という非常に寂しいところです。しかも全員が男という考えただけでもむさ苦しい部なのです。

RPGはというと、これまたよくわかりません。しかし簡単に説明するならばTVゲームのRPGの元になったものであり、のめりこんだらTVゲームの比にならないくらい壮かつ楽しいものだという事です。しかし、その楽しみを知るためには結構な時間と労力を要します。部員みんなこの楽しみを知りたいとは思っているのですが、なにぶんいろいろと忙しいので部室に全員がそろえることがなかなか無く全員がルールをおぼえるまではいかないし、人数もそろわないのでゲームを行う機会もありません。ですから暗い青春を分かち合う部員を募集中です。

現在の活動内容はどうとこれもまた未定です。今年の4月には高専祭に向けてパソコンを使って何か一発やってみようという話になったのですが実は部員4人のうち私以外3人が5年生なのです。先輩達には就職試験や卒業研究があり部活に出れる時間が少ないということが大きな壁となり、泣く泣く涙を飲んで高専祭に出ないことを決めました。でもうちの部が誇る先輩方ですから卒研が落ち着いた暁にはきっと部に何か大切なものを残して卒業されることでしょう。

RPGは一見暗く、楽しくなさそうですが実際非常に楽しいもの。(ではないかなあと思います。)21世紀のブームはきっとこれでしょう。

今後の活動としては皆で集まってRPGに限らず、いろいろなゲームなどを自分達で作ったりしてワイワイガヤガヤと楽しい部活動というのを作っていただけたいなあと思っています。

英語弁論大会 3C 森山 智代

7月24日、八代高専において、「九州地区国立高専英語弁論大会」が行われました。本校からは、1Cの三浦さんと古庄さんがレシテーションの部に、私はスピーチの部に出場しました。

私は、アメリカでの留学体験を発表しました。大会に向けて、前期中間試験後から取り組み始めました。夏休みも練習に励み、なんとかジェスチャーも加えながらスピーチできるようになりました。

大会当日、私は緊張感いっぱいでした。他校のレシテーションやスピーチの中で、ユーモアあふれるものや、考え深いものなど、圧倒されるものばかりで、とても勉強になりました。私は、ただ心を落ち着かせ、自分のスピーチを楽しく聞いてもらおうと努力しました。結果、1位をとることができ、嬉しい反面、驚きが大きかったです。レシテーションの部では、三浦さんが2位、古庄さんが3位と素晴らしい結果でした。

この大会に参加したことで、他高専との交流も増え、良い経験をすることができました。色々ご指導して下さいました先生方に心から感謝いたします。



左から 古庄、森山、三浦

ホンダエコノパワー大会

第13回ホンダエコノパワー九州大会は8月10日、台風12号の予波の残る薄雲の風を受けての悪条件の中で決行された。大会1週間前に設計担当の5M川上君が交通事故でリタイヤするアクシデントに急ぎよ昨年の車体を補習しての参加。

特にタイロッドの折損部品の調達とステアリングのフロント足回りを重点に補修、前日の夜9時に校内を試走に成功。当日の車体検査も1回でクリアして出発を待つ。ゼッケン109で最終レース近くになるが雨模様で早めにスタート。ステアリングシャフト軸受のガタが気掛りであったが3M山下君のドライブテクニックでカバーして1周目、2周目と回を重ね残り半分になったとき、これは10周完走するのではないかと思った矢先に6周で、ピットイン、オーバーヒートである。急速冷却して再走行も可能だったが一応の目標を果たしたので棄権。完走はできなかったが近年にない快走で安心して見られたのも5E神保君の努力によるところ大であった。(機械工学科 堤 清康)

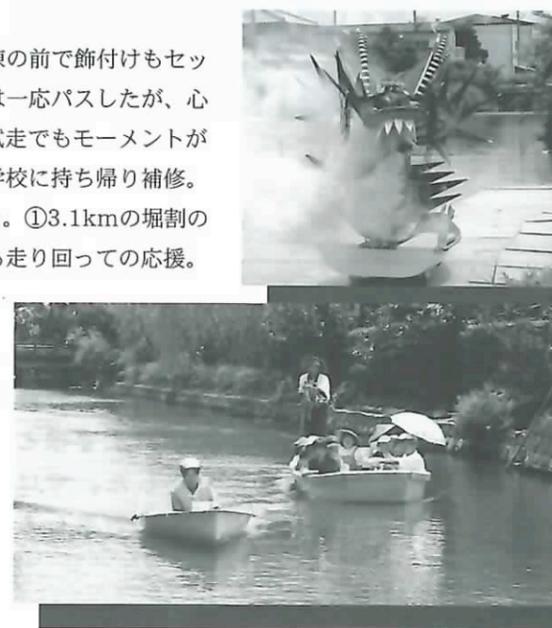


柳川ソーラーボート大会

夏休みに入ってから製作で、搬入当日の8月1日管理棟の前で飾付けもセットして完成、出陣の記念撮影後、会場に向かう。船体検査は一応パスしたが、心配していた船外支持パイプの80cmオーバーが指摘され、試走でもモーメントが大きく、水濡れもあって万力が外れるハプニングもあり、学校に持ち帰り補修。8月2日予選前の試走では、安定したハンドル操作ができる。①3.1kmの堀割の周回りは3M山下君のドライブにより快走、スタッフ一同も走り回っての応援。午後より②10ポイントスラロームは4Mの坂本君の絶妙のドライブでロス無く走り抜けた。いずれも完走して中位程の成績で初参加にしては、まずまずの出来であった。

8月3日午前中の決勝には残れず、来年の参考に見学をする。午後の③フリースタイルは苦心作の大蛇山と振り付けは自信作であったが、リハーサルを行うことができず、夕方風が強くなり転覆の危険を避け断念。しかし、事前に会場前のピットで展示紹介してもらえた。

(機械工学科 堤 清康)



夏だ！まつりだ！

「大牟田夏まつり一万人総踊り」に参加

7月27日有明高専も地域の企業や団体と一緒に総踊りに参加しました。校長をはじめ教職員と同窓会（有友倶楽部）約70名が汗だくになり、2時間以上踊りつづけました。日頃見れない先生や大先輩の姿を見た学生も多いことと思います。来年も楽しみです。



まずは練習から。イヨー！



踊ってます。乗ってます。



さあ出発。気合いを入れて！



本校留学生"タサナジョン&ウィリー" これが日本の夏か？

編集後記

あの暑かった高専大会。学生の皆さん、とりわけ5年生の諸君には、高専生活の最後の夏。今年は九州地区高専体育大会の主管校として、教職員の皆さんもお疲れさまでした。今はもう秋、この夏の思い出盛りだくさんをお楽しみいただけたでしょうか・・・。

有明高専だより 第93号
平成9年10月15日
編集・有明高専広報委員会
発行・有明工業高等専門学校
〒836 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8611